

## 連結ベース

## ■ 損益状況

(単位：百万円)

科 目	平成22年度中間期	平成23年度中間期
経 常 収 益	60,161	58,257
経 常 費 用 ( △ )	55,548	54,050
経 常 利 益	4,613	4,206
中 間 純 利 益	5,199	4,096

## 経営環境

当中間連結会計期間におけるわが国の経済は、東日本大震災の後、生産・輸出を中心に、大きく落ち込みました。生産設備の毀損やサプライチェーンにおける障害など供給面の制約を背景に、生産活動が大きく低下し、その結果、輸出も大幅に減少を余儀なくされました。また、わが国の経済の先行きや原子力発電所の事故の影響などを巡る不透明感から、企業や家計のマインドが悪化したこともあって、国内民間需要も弱い動きとなりました。その後、多くの企業で、被災設備の復旧とともに、代替施設での生産や代替調達先の確保など、様々な努力と工夫が行われ、震災直後に大幅に落ち込んだ生産や輸出は、すでに震災前の水準に復し、企業や家計のマインドの改善もあって、設備投資や個人消費などの国内民間需要についても、持ち直しています。

物価情勢につきましては、今春にかけての国際商品市況の上昇を反映して、企業物価の前年比はプラス幅を拡大し、消費者物価は、マクロ的な需給バランスが緩やかな改善傾向を続ける中、下落幅は着実に縮小を続け、最近では概ねゼロ%となっております。

金融面につきましては、日本銀行の潤沢な資金供給を背景に、無担保コールレート（翌日物）は、低位で安定的に推移しました。また、長期金利は、日本国債利回り（10年物）の低下幅は、相対的に小さいものの、米・独利回りの動向に連れるかたちで低下し、1%近傍で推移しております。

株価につきましては、欧州債務危機を発端とした金融不安の高まりを受け、リーマン・ショック後の

## 単体ベース

## ■ 損益状況

(単位：百万円)

科 目	平成22年度中間期	平成23年度中間期
営 業 収 益	6,263	6,812
営 業 費 用 ( △ )	481	461
営 業 利 益	5,782	6,351
経 常 利 益	5,705	6,333
中 間 純 利 益	5,703	6,349

最安値圏で推移し、中間期末の日経平均株価は8,700円台となりました。

## 業績の概要

当社グループ連結業績につきましては、当中間連結会計期間の経常収益は、資金運用収益360億60百万円、役務取引等収益84億85百万円、その他業務収益81億79百万円及びその他経常収益55億31百万円を計上し、582億57百万円となりました。また、経常費用は、資金調達費用58億35百万円、役務取引等費用26億60百万円、その他業務費用9億76百万円、営業経費282億17百万円及びその他経常費用163億60百万円を計上し、540億50百万円となりました。

以上の結果、経常利益は42億6百万円となり、固定資産処分損等の特別損失計上後の税金等調整前中間純利益は39億78百万円となりました。また、法人税等合計△3億33百万円並びに少数株主利益2億15百万円を計上後の中間純利益は40億96百万円となりました。

当社単体業績につきましては、子銀行からの受取配当金を中心に営業収益は68億12百万円となりました。一方、販売費及び一般管理費の営業費用を4億61百万円計上したことから、営業利益は63億51百万円となりました。また、創立費償却を中心に、営業外費用を22百万円計上したことから、中間純利益は63億49百万円となりました。